

今日から使える SDGs関連用語12選 2022ver.



はじめに

「SDGsってよく聞くけれど、よくわからない用語が多い…」

実はそんな思いを持たれている方、意外と多いのではないのでしょうか。

SDGsについて語られる際によく用いられる用語である「エシカル」、「ダイバーシティ」、「ウェルビーイング」などの言葉をニュースやSNSで目にしない日はありませんが詳しくはななくとも易しく理解できる説明でまとめられた資料があれば、きっとお役立ていただけるのではないかと思い、本資料を作成させていただきました。

SDGsとの関連性の高い用語をまとめましたので、ご一読いただけますと幸いです。

「SDGs」

～持続可能な開発目標～



SDGsとは持続可能な開発目標のことで、通称「グローバル・ゴールズ」と呼ばれており、貧困を無くすことや、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを享受できるようにすることを目指す普遍的な行動を呼びかけています。SDGsの目標は17項目。

持続可能な開発目標は、17の世界的目標、169の達成基準、232の指標からなり、ミレニアム開発目標が2015年に終了することに伴って2015年9月の国連総会で採択された『持続可能な開発のための2030アジェンダ』に記述された2030年までの具体的指針である。

今回ご紹介する用語一覧

- ・サステナブル
- ・エシカル
- ・ダイバーシティ
- ・ESG
- ・カーボンニュートラル
- ・サプライチェーン
- ・グリーンウォッシュ
- ・アップサイクル
- ・ISO
- ・生分解性プラスチック
- ・ユニバーサルデザイン
- ・ウェルビーイング

使用頻度が高い用語を12個集めてみました。

次のページから個別に解説していきます！



サステナブル

サステナブル (Sustainable) は直訳すると

「維持可能な」「持ちこたえられる」という意味。

環境保全の分野では自然環境の維持に役立つ開発や自然環境に配慮した行動などを指す場合に使われる言葉。貧困の解消などの格差問題や人権保護も含めた地球と社会と人間の全ての持続可能な発展という広い意味を持つ。

<使用例>

サステナブルファッション：衣服の生産から着用、廃棄に至るプロセスにおいて将来にわたり持続可能であることを目指し、生態系を含む地球環境や関わる人、社会に配慮した取り組みのこと。

サステナブルフード：有機栽培で作られた野菜や果物、決められたルールのもと漁獲されたものなど、自然環境や社会にできる限り負荷を与えずに作られる食べ物のこと。



エシカル

エシカル (Ethical) は直訳すると「倫理的な」「道德上の」という意味。

法律やルールなどの縛りがなくても人々が正しい、公平だと思っていること。「人」「地球環境」「社会」「地域」を大切にする考え方や行動。サステナブルと似たような場面で使用される。

<使用例>

エシカル消費：消費者それぞれが各自にとっての社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援しながら消費活動を行うこと。

エシカルファッション：人と地球に配慮したファッションのこと。環境問題だけでなく、労働問題や社会問題にも配慮したうえで素材を選び生産し、販売までを行っているファッション。



ダイバーシティ

Diversity（ダイバーシティ）は直訳すると「多様性」という意味。

企業としては、会社組織内において、年齢・性別・宗教・人種・趣味嗜好・価値観・ライフスタイルなどの違いを受け入れ、多彩な人材が持つ可能性を発揮させようとする考え方。

<使用例>

ダイバーシティ経営

多様な人材を活かし、その能力が最大限発揮できる機会を提供することで、イノベーションを生み出し、価値創造につなげている経営のこと。

ダイバーシティを推進することで、異なるカルチャーやパーソナリティを持った人材から、異なる視点の新しいアイデアが生まれ、企業に対して良い影響を与えることも考えられる。



ESG

環境（Environment）・社会（Social）・企業統治（Governance）

上記の英単語の頭文字を取った言葉がESG。

企業が長期的に成長するためには、経営においてESGの3つの観点が必要だという考え方。世界が直面している温暖化や水不足などの環境問題、人権問題や差別などの社会問題、自己管理体制を自ら備え社会のルールの厳守などが長期的な企業成長するための経営に必要であり、視野に入れないといけないという考え方。

<使用例>

ESG投資

従来の財務情報だけでなく

- ・ 環境（Environment）
- ・ 社会（Social）
- ・ ガバナンス（Governance）

上記3つの要素も考慮した投資のこと。



カーボンニュートラル

温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするという考え方。

「全体としてゼロに」とは、排出量から吸収量と除去量を差し引いた合計をゼロにするということで、現実には温室効果ガスの排出量をゼロに抑えることは難しいため、排出した分については同じ量を吸収または除去する、「差し引きゼロ（ニュートラル）にする」という意味。

<カーボンオフセットとの違い>

カーボンオフセットとは、CO₂の排出量を減らす努力をしたうえで、別の場所でCO₂の削減吸収によって埋め合わせをする考え方。

カーボンニュートラルはCO₂の排出量と吸収量が等しい状態を表すことに対して、カーボンオフセットは排出量の一部を相殺すること。



サプライチェーン

商品が生産されてから消費されるまでの一連の経済活動のこと。

「商品の調達・製造から流通を経て消費者に届くまでのすべての工程」をひとつの連動したシステムとして捉えた考え方を示す言葉。SDGsの文脈では、その商品・サービスが「どのような環境で」「誰によって」つくられているのかを公開できるという企業の「透明性」を語られる際に用いられることも多い。

<使用例>

サプライチェーンマネジメント

サプライチェーン全体で情報を共有、連携し、全体最適化を図る経営手法のこと。

サプライチェーン・マネジメントを適切に行うことで、パンデミックや経済危機等で起こりうる様々な途絶のリスクを回避し、持続可能な活動となる。



グリーンウォッシング(グリーンウォッシュ)

中身を伴わないのに、うわべだけ環境配慮を打ち出すこと。

実際には環境に十分配慮していない商品やブランドについて、パッケージやPRなどを通じて「エコ」「環境にやさしい」といった誤った印象を与える行為で、「グリーン（＝環境に配慮した）」と「ホワイトウォッシング（＝ごまかす、うわべを取り繕う）」を合わせた造語で、1980年代にアメリカの環境活動家によって唱えられた言葉。

<問題点>

最大の問題点は、消費者に対する誤解を招くこと。また、消費者が無意識に環境破壊に加担してしまうこと。

商品やブランドを展開する側も、無意識のうちにもグリーンウォッシングを行っていた場合、ブランドイメージの低下や、キャンセルカルチャー（不買運動）の標的にされる可能性がある。



アップサイクル

本来は捨てられるはずの製品に新たな価値を与えて再生すること。

「創造的再利用」とも呼ばれており、デザインやアイデアによって付加価値が与えられることで、ものとしての寿命が長くなることも期待できるため、製品のアップグレードと捉えることもできる。

<使用例>

使わなくなったジーンズを加工してバッグをつくる。

Cf. ダウンサイクル

元のモノよりも価値を下げることを指す。

Ex. 洋服をつぶして、雑巾などに使用する



UPCYCLING



DOWNCYCLING

ISO

ISOとは、スイスのジュネーブに本部を置く非政府機関 International Organization for Standardization（国際標準化機構）の略称。

ISOは国際的な標準化の決まりごと、規格を制定・管理することが主な役割。ISOの標準、規格を使うことで、世界共通の基準でモノやサービスの提供を可能にし、国際的な取引などもスムーズに行なうことが可能となる。ISOが定めているこれらのシステム、仕組みを企業などの組織が満たしているかが審査され、適合していればISO認証を取得することができる。

<使用例>

ISO14001：環境に関する国際規格。企業などの組織が環境と経済、社会とのバランスを維持しながら、環境を保護し、変化する環境状態に対応運用できるように定めた規格。

ISO45001：働く人の労働に関連する国際規格。安全で健康的な職場環境を提供する仕組みを実現するための要求事項を規定している。



生分解性プラスチック

廃棄後、焼却せずに微生物によって分解されて

最終的に二酸化炭素と水になる環境に配慮したプラスチックのこと。

通常のプラスチックと同様に使うことができ、使用後は自然界に存在する微生物の働きで、最終的に水と二酸化炭素に分解され自然界へと循環するプラスチックのこと。

<使用例>

農業用マルチフィルムへの利用が主流で、そのほか園芸用資材、土木工事用資材、コンポスト用ゴミ袋などに利用されている。

生分解性プラスチックへの置き換えには優先度があり、優先的なのが非耐久財と言い、使用後に回収できていないもの。例えば、釣り糸や漁網などは自然環境への流出が見られるため、生分解性プラスチックへの置き換えを進めることが望ましいとされている。



ユニバーサルデザイン

「すべての人のためのデザイン」「みんなにやさしいデザイン」という意味。

年齢、性別、文化、身体状況など、人々が持つさまざまな個性や違いにかかわらず、最初から誰もが利用しやすく、暮らしやすい社会となるよう、まちや建物、もの、しくみ、サービスなどを提供していこうとする考え方。

<バリアフリーとの違い>

バリアフリーとは、障害者・高齢者を主な対象として、生活の支障となるものを除去していく考え方のこと。この生活の支障には、制度的、心理的といったものがあてはまる。

一方、ユニバーサルデザインとは、年齢・性別・人種などにかかわらず、すべての人が利用しやすい生活環境をデザインする考え方のこと。



ウェルビーイング (well-being)

心身ともに良好な状態にあることを意味する概念で「幸福」とも翻訳される。

肉体的、精神的、社会的にも健康で満ち足りている、多方面で幸福な良い状態が持続していることを意味する概念として使われ、「よく生きる」とも解釈される。1948年、世界保健機関（WHO）憲章の中で健康の定義としてウェルビーイングが用いられたのを機に世界に広まった。

<SDGsとの関わり>

SDGsの目標3には、
「すべての人に健康と福祉を（Good Health and Well-Being）～あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進するとある。

このように原文に使われていることから、深い関わりがある。



おわりに

いかがでしたでしょうか。

「SDGsってよく聞くけれど、よくわからない用語が多い...」

というお悩みに対してお役に立てていればいいのですが。

SDGs（持続可能な開発目標）には17の世界的目標、169の達成基準、232の指標があります。

目標の達成を目指す過程で、今後も新しい概念や手法などが生まれくるはずです。そして、それに伴って新しい用語も次々に現れてくるに違いありません。

私たちはSDGsを推進する企業、株式会社京富士印刷の社員として常にアンテナを張り巡らし、調査を続けてまいります。

この先も調査結果を元にした資料の作成を続けてまいりますので、引き続きお役に立てただけですと幸いです。

ご相談は京富士印刷まで

地球のためにも
SDGsを知っていこう！



会社概要

エコパッケージや包装資材等でお困りでしたら気軽にご相談ください。
京富士印刷が解決します。



Twitter
@kyofujiinsatsu



Instagram
@kyofujiinsatsu



Facebook
@kyofujiinsatsu



[お問い合わせフォーム](#)



商号	株式会社京富士印刷
所在地	〒601-8446 京都市南区西九条高島町14-8 TEL : (075) 681-4358 FAX : (075) 681-4877
WEB	https://kyofuji.co.jp
資本金	1,000万円
創業	1960年（昭和35年）
法人設立	1984年（昭和59年）
事業内容	環境包装エコパッケージ・包装パッケージ グラフィックデザイン・出版物・商業印刷物の制作 包装関連資材の販売・在庫預かりサービス